



公益財団法人
日本体育協会



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

[平成28年度総集編]



2 特別企画

テーマ別運営事例集

このメールマガジンはスポーツ振興くじ (toto) 助成金を受けて配信しています。

スポーツ振興くじ (toto) についてはこちらから
[日本スポーツ振興センター HP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

INDEX

| | |
|---|----|
| ■日本体育協会公認スポーツ指導者資格情報 (第126号：平成28年5月23日発行) | 3 |
| ■連絡ツールを活用するクラブ (第127号：平成28年7月20日発行) | |
| スポーツ・レクリエーション倶楽部くせ | 9 |
| ■アクティブ・チャイルド・プログラム (第128号：平成28年9月20日発行) | |
| アクティブ・チャイルド・プログラム 概要 | 13 |
| NPO法人 たかはまスポーツクラブ | 17 |
| むれスポーツクラブ | 20 |
| ■障がい者スポーツと総合型クラブ (第129号：平成28年11月21日発行) | |
| 一般社団法人 飛騨シューレ | 23 |
| NPO法人 あいずみスポーツクラブ | 27 |
| ■障がい者スポーツと総合型クラブ (第130号：平成29年1月20日発行) | |
| NPO法人 黄金井倶楽部 | 30 |
| ■座談会 総合型クラブで活躍する公認クラブマネジャー (第131号：平成29年3月21日発行) | 34 |

[公認スポーツ指導者資格情報]

日本体育協会では、生涯を通じた快適なスポーツライフの構築を図ることを通して、望ましい社会の実現に貢献するため、その推進の中心となるスポーツ指導者を養成しています。

日ごろ総合型クラブでスポーツ・運動指導されている皆様に、より活躍の機会を広げていただくため、本会で養成している資格に関してご案内いたします。

-
- ➔ 1. 公認指導員／公認上級指導員
 - ➔ 2. 公認ジュニアスポーツ指導員
 - ➔ 3. 公認スポーツプログラマー

指導員／上級指導員の役割

指導員・上級指導員は地域スポーツクラブなどで、競技別の専門的な知識を活かし、指導対象者の特徴に合わせた指導にあたります。特に指導員は、スポーツに初めて出会う子どもたちや初心者を対象に、総合的な動きづくりに主眼を置き、遊びの要素を取り入れたプログラムを行います。上級指導員はスポーツ教室の計画や運営を行うほか、指導員の育成の役割も担います。

総合型クラブに求められる多様なニーズに対応すべく、指導員・上級指導員を取得してはいかがでしょうか。

受講条件

指導員……… 受講年度の4月1日現在で満18歳以上の者
上級指導員… 受講年度の4月1日現在で満22歳以上の者
(※競技によって異なる場合あり)

受講内容

<指導員>

- 共通科目 35時間(共通Ⅰ:通信講座(自宅学習))
- 専門科目 40時間(都道府県体育協会と都道府県競技団体、中央競技団体にて実施する)

<上級指導員>

- 共通科目 70時間(共通科目Ⅰ・Ⅱ)
集合講習 14時間(都道府県体育協会にて実施する)
自宅学習 56時間
- 専門科目 20時間(都道府県体育協会と都道府県競技団体、中央競技団体にて実施する)

こんな内容を学べます!

- スポーツに関する基礎的知識
- 競技者育成プログラムの理念と方法
- スポーツ教室や各種イベントの企画立案(※上級指導員のみ)

申込期間

平成28年5月1日(日)～6月30日(木)
※実施団体によって、申込期間が異なる場合があります。
詳細は各実施団体へ確認してください。

申込方法

➡ お申込方法は[こちら](#)

受講料

<指導員>

共通科目 19,800円(税込/共通科目I免除者は不要)

専門科目 15,120円(税込/別途必要経費がかかる場合あり)

<上級指導員>

共通科目 15,120円(税込/共通科目I免除者は8,640円、

共通科目講習会免除者は11,040円、

共通科目全免除者は不要)

専門科目 10,800円(税込/別途必要経費がかかる場合あり)

その他

✔ 日本体育協会ホームページ：指導員

<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/208/Default.aspx>

✔ 日本体育協会ホームページ：上級指導員

<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/209/Default.aspx>

現代の子どもたちの課題とジュニアスポーツ指導員

ジュニアスポーツ指導員の役割の1つである、子どもたちが遊びを通じて、楽しみながらからだを動かすプログラムを提供することは、非常に重要となっています。子どもの体力低下や運動をする子としない子の二極化が取り沙汰されている現代において、子どもたちの発育発達段階に沿った「基本的動作」を習得させることは、将来にわたった総合的なからだづくりに大きく役立ちます。ぜひジュニアスポーツ指導員の専門的な知識・技術を習得し、多くの子どもたちが所属する総合型クラブでのスポーツ指導に役立ててみてはいかがでしょうか。

受講条件

受講年度の4月1日現在で満20歳以上の者

受講内容

○共通科目 35時間 <共通Ⅰ：通信講座(自宅学習)>

○専門科目 40時間 <集合講習会：全国1会場>

前期：平成28年9月2日(金)～4日(日)3日間

後期：平成28年11月19日(土)～20日(日)2日間

会場：スポーツ総合センター

〒362-0031 埼玉県上尾市東町3-1679 スポーツ総合センター

こんな内容を学べます!

- 大人のスポーツと子どものスポーツの違い
- 移動系(走る・跳ぶ等)・平衡系(転がる・よじ登る等)・操作系(投げる・掴む等)の運動スキル
- 運動遊びやゲームの種類、スポーツ種目特有のスキル(サッカー・水泳・ダンス等)

申込期間

平成28年6月1日(水)～30日(木)

申込方法

➔ お申込方法は[こちら](#)

受講料

共通科目 19,800円(税込)

専門科目 21,600円(税込)

その他

✔ 日本体育協会ホームページ：ジュニアスポーツ指導員

<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/214/Default.aspx>

総合型クラブにおけるスポーツプログラマーの役割

総合型クラブでは、子どもから高齢者、障がい者まで、さまざまな方々がスポーツを楽しんでいます。特にフィットネスの維持や向上のためには、指導対象者の目的や年齢、能力などに応じた知識を習得し、安全に留意して効果的に指導を行うことが重要です。それらの知識を習得する資格として、公認スポーツプログラマー資格があります。ぜひスポーツプログラマーの専門的な知識・技術を習得し、スポーツを楽しむ多くの方々への指導に役立ててみてはいかがでしょうか。

受講条件

受講年度の4月1日現在で満20歳以上の者

受講内容

○共通科目Ⅰ・Ⅱ 70時間

集合講習 16時間 <全国2会場(東京・大阪)>

東京会場：日本体育大学(世田谷キャンパス)

〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1

平成28年8月27日(土)～29日(月)3日間

大阪会場：大阪体育大学

〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝城代1番1号

平成28年8月5日(金)～7日(日)3日間

自宅学習 54時間

○専門科目 63時間

集合講習 63時間 <全国1会場>

前期：平成28年9月13日(火)～16日(金)4日間

後期：平成29年1月23日(月)～27日(金)5日間

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園3-1

こんな内容を学べます!

- 体操・エアロビクス・水泳・レクリエーション等のヘルス・エクササイズ
- 体調チェックや安全管理(ウォーミングアップ・クーリングダウン)
- 子ども、女性、高齢者、障がい者のフィットネスプログラム

申込期間

平成28年5月2日(月)～6月10日(金)

申込方法

➔ お申込方法は[こちら](#)

受講料

共通科目 21,600 円 (税込 / 共通科目 I 免除者は 17,280 円、
共通科目講習会免除者は 11,040 円、
共通科目全免除者は不要)

専門科目 54,000 円 (税込 / 健康運動指導士有資格者は 25,700 円)

その他

✔ 日本体育協会ホームページ：スポーツプログラマー

<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/215/Default.aspx>

連絡ツールを活用するクラブ

[スポーツ・レクリエーション倶楽部くせ]

クラブが会員や地域住民に向けて発信を行う際には、できるだけ多くの受信者に見逃されることなく届くこと、そして事務局の作業時間が短縮できるものが好ましいと言えます。

代表的なものとしてまず考えられるのは、メール（メーリングリスト）やホームページ（ウェブサイト）などです。しかし、より多くの人目に触れることが期待できるツールや、年齢層によって伝達効果が異なるツールも多く存在しています。

今月号の特別企画として、各クラブの参考となるような幅広い連絡ツールを活用しているクラブを紹介します。



1 クラブ概要

平成13年に、スポーツ推進委員会と教育委員会が発足のきっかけをつくりました。平成14年に設立準備委員会によってクラブ設立を検討し、設立趣意書に「町民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会を実現する」というテーマと、「スポーツのまち久世町を復活する」と

いう宣言を掲げ、平成15年に母体を持たずにゼロから発足したクラブです。

これからスポーツを始めたいと思っている人や、スポーツをしていない人に向けた33の定期プログラムや各種イベントを行っています。平成27年度にtotoからの助成金が終了し、自主自立に向けて活動をしています。

2 活用している連絡ツールの内容・活用

クラブでは、下表のものを連絡ツールとして活用しています。

■ 利用している連絡ツール

| | ケーブルテレビ | ホームページ | LINE@ | Twitter | facebook | Sports Manager (ピクロ) |
|------|---------------------------------------|--|---|---|--|----------------------|
| 目的 | 会員の年齢層が幅広いので、それぞれの年代にあわせた情報発信ツールを複数持つ | | | | | |
| 内容 | 市内全域に告知するイベント | <ul style="list-style-type: none"> クラブ紹介 カレンダー プログラム イベント情報 入会案内 など | <ul style="list-style-type: none"> プログラムの休止・変更 イベント情報 | <ul style="list-style-type: none"> HPへの誘導 プログラムの休止・変更 イベント情報 | <ul style="list-style-type: none"> 小学生の保護者向け プログラムの休止・変更 イベント情報 | |
| 運用 | 必要時にテレビ局に文章で依頼 | 情報発信のメイン | 主にタイムラインを使用 | Twitterとfacebookを連動情報の第一報として発信 | | 連絡網サービス利用 |
| 経費 | 無料 | 無料の範囲内で利用 | | 無料 | | 初期費用必要 |
| 利点 | SNSを利用しない方への情報発信 | 決定事項をすぐに発信できる スマートフォンを利用すればどこにいても発信できる | | | | 情報発信後に保護者の確認状況を把握できる |
| 更新頻度 | — | 必要時に随時 | | | | |
| 更新者 | — | 事務局1名が情報を一本化して更新 ※各プログラム内でスタッフから電話、メール、LINEなどで連絡事項を流すこともあり。会員、会員問わず周知する内容は、クラブから発信。会員内だけの連絡についてはスタッフが行うこともあり。 | | | | |
| 負担感 | なし | 先に分かっていることはまとめて更新。天候に左右される屋外のプログラムの連絡は時間を気にしながらの情報発信となるが、一斉に通知できるので負担感はない。 | | | | |

※急な休み(例：気象の警報が出て中止にするなど)の時は、人数が10数名のプログラムについてはスタッフと事務局とで手分けをして電話連絡をするときもあり。

上記の連絡ツールを活用するにあたっては、個人情報の扱い等に注意しています。そのため、イベント報告やPRの際に、画像や個人名を出すことがあるので入会受付時に掲載の可否を確認するようにしています。また、全員に情報が行きわたっていると過信せず、各プログラムの開催時にも情報が届いているか確認することを心がけています。なお、登録当初は無料であっても料金プ

ランが途中で変更になり、容量の制限等が設定されることがあるので、使用にあたっては最新の使用条件を確認するようにしています。

その他、イベントの開催要項等にも、「警報発表時の開催有無の通知について」という項目を設け、QRコードや検索ワードを掲載し、参加者が開催状況を簡単に確認できるような取組もしています。

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>ホームページ</p>   <p>http://sporekuse-maniwa.jimdo.com/</p> | <p>LINE@</p>   | <p>Twitter</p>   <p>https://twitter.com/sporekuse</p> | <p>facebook</p>   <p>https://www.facebook.com/sporekuse/</p> |
|---|---|--|---|

3 ケーブルテレビ「真庭いきいきテレビ」との連携

ケーブルテレビ：真庭いきいきテレビ

クラブ設立準備当時の地区のケーブルテレビ局「KHK」は久世町が運営していました。旧久世町教育委員会が主導となり、クラブ設立を検討したことから、KHKのバックアップをいただくことができ、クラブにとって強い味方となりました。

平成14年2月、設立準備委員会では総合型地域スポーツクラブのPR番組を作成しました。設立準備委員会とKHKのディレクターとで内容を協議し、番組の作成をしました。準備委員自らが出演し、「総合型クラブとは?」「久世町がめざすクラブは?」「クラブに入ったらどんな良いことがある?」といった内容の番組を放送したり、会員募集の時期にはコマーシャルも放送しました。

クラブ発足以降は、クラブのプログラム紹介番組、10周年記念事業の事前PR番組、敬老会特集でクラブ会員の最高齢の方がクラブで活動している様子など、特集番組として制作していただきました。

久世町が町村合併により真庭市となり、テレビ局が「KHK」から「真庭いきいきテレビ

(MIT)」となった後も、地域のニュースを放送している夕方の情報番組「ほっとまにチャン」のお知らせコーナーにおいて、文字と音声によるイベントの告知を行っています。

その他、クラブのイベントや、Jr綱引スクールが全国大会に出場する激励会の様子などをニュース番組の中で放送しているので、クラブのPRにもつながっています。

また、MITの企画としてノルディックウォーキングの体験番組を作成する際には、当クラブのウォーキングサークル会員がモニターとなって出演をするなど連携もしています。

このように、テレビ局側から「こういう番組を作りたい」という企画を受ける形(数分の番組)と、クラブ側から文章を渡してイベントの告知などを放送してもらう形(ニュースの中のお知らせコーナー)で連携をしています。真庭市のスポーツ振興、地域活性化につながるものとして協力していただいています。

(スポーツ・レクリエーション倶楽部くせ)
クラブマネジャー 前田 江美

解説

ケーブルテレビ・地域密着チャンネルとは

ケーブルテレビとは、サービスを提供する地域に光ファイバーケーブルや同軸ケーブルを敷設して、ケーブルテレビ局のセンターと地域内の一軒一軒の家庭を1本のケーブルで結び、放送サービスと通信サービス等、多様なサービスを提供しているものです。

また、特定の地域を対象にサービスを提供しているため、地域に密着した内容を放送するチャンネル(コミュニティチャンネル)を持っているところも多くあります。

スポーツ・レクリエーション倶楽部くせの例を参考に、ケーブルテレビ局(運営会社)と連携し、クラブの魅力をアピールするような企画を持ち込んでみてはいかがでしょうか。



一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟のホームページで、地域のケーブルテレビ事業者を検索することができます。

http://asp.netmap.jp/jcta/search_pref.html

*一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟ホームページより一部引用

クラブプロフィール

設立年月日：平成15年5月11日

所在地：岡山県真庭市久世地区

運営：会員数363名(平成28年6月現在)、
予算規模724万円(平成28年度)

特徴：クラブ発足から13年が経過し、近年は事業の柱となる「運動・スポーツ実施機会の定着」「スポーツを通しての世代間交流」「高齢者の居場所づくり」「地域の子どもの体力向上」などの運動・スポーツ活動の他に「飲み歩き食べ歩きイベント」や「自主防災組織設立推進事業」など地域で必要とされることに挑戦し、スポーツだけではない地域密着の運営体制に取り組んでいる。

■連絡先

| | |
|--------|---|
| 郵便番号 | 719-3201 |
| 住所 | 岡山県真庭市久世266-2 久世体育館内 |
| TEL | 0867-42-5430 |
| FAX | 0867-45-7557 |
| Eメール | sporekuse2003@blue.ocn.ne.jp |
| ホームページ | http://sporekuse-maniwa.jimdo.com/ |



みんなで遊んで元気アップ!

アクティブ・チャイルド・プログラム

子どもを対象としたプログラムの内容で悩んだことはありませんか？

日本体育協会では、子どもが楽しく遊ぶことを通し多様な動きを習得することを意図した運動プログラムとしてアクティブ・チャイルド・プログラムを開発しました。

今号では、「アクティブ・チャイルド・プログラム」の概要や活用のための各種ツール、クラブでの実践例を紹介します。

アクティブ・チャイルド・プログラムをあなたのクラブでも取り入れてみてはいかがでしょうか？

アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)趣旨と概要

現在、子どもたちを取り巻く環境は昔と比べて大きく変わっています。塾や習いごとに通うことでの時間の増加、自由な遊び場が減ったことによる環境の変化、携帯ゲームの流行等の遊び道具の変化が重なり、子どもたちがからだを動かす機会は減少の一途をたどっています。

結果、子どもたちの体力低下はもちろん、肥満や各種アレルギー、不定愁訴、ストレスが解消されないことで心の問題にも影響を与えているといわれています。

👉 ポイント① 子どもの体力や身体活動の現状

- 活発にからだを動かす遊びが減っている
- 自発的な運動の機会が減っている
- からだの操作が未熟な子どもが増えている
- からだを動かす機会が少なくなっている

👉 ポイント② 発育期における運動の意義

- 体力・運動能力の向上
- 意欲的なこころの育成
- 認知的機能の発達
- 健康的なからだの育成
- 社会適応力の発達

子どもたちが“楽しみながら”“積極的に”からだを動かすための指導法としてアクティブ・チャイルド・プログラムを開発しました。このプログラムでは、発育期における身体活動・運動の意義や多様な動きを身につけることの重要性などについて解説するとともに、具体的な運動遊びや身体活動の習慣化を促すためのアプローチについて紹介しています。

おもに次の4つのテーマについて、実際の指導現場への普及を図っています。

1. 子どもの体力・身体活動の現状や、からだを動かすことの重要性
2. 多様な動きを身につけることの重要性や動きの質のとらえ方
3. 遊びプログラムの具体例として、運動遊びや伝承遊び
4. 身体活動の習慣化を促すアプローチとして、ポイントや実践例

また、子どもの身体活動量の低下や運動離れは幼児期から起こっていると考えられるため、あわせて「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」もとりまとめています。幼児期から安心して指導できる活動プログラムの提供や、情報発信にも努めています。

普及のための各種ツール

アクティブ・チャイルド・プログラムの効果的な活用法を周知するため、日本体育協会は以下のようなツールを提供しています。

ホームページ

アクティブ・チャイルド・プログラム専用のホームページを設け、子どもたちが楽しみながらからだを動かすことのできる「運動遊びプログラム」とともに、指導のコツ、指導者と保護者のためのチェックリストを紹介しています。



日本体育協会
みんなで遊んで元気アップ!
アクティブ・チャイルド・プログラム

トップページ みんなのACP スポーツ指導者の方へ 保護者・お子さんへ

トップページへ > スポーツ指導者の方へ > 追って、追われて!

基本的動きを身につける

- なぜ「動き」が大切か
- 「動き」を評価する方法
- 走動作 (50m走) の観察評価
- 跳動作 (立ち幅跳び) の観察評価
- 投動作 (ボール投げ) の観察評価
- 動作の発達段階の特徴
- こんな運動できるかな?

遊びプログラム

運動遊び

- 追って、追われて!
- 棒は倒さんぞ!
- 落とさず運ばえる!
- とび石ジャンプ
- ジャンプオニ
- タイミングジャンプ
- シグナルジャンプ&ラン
- ひらり、かわして!
- 勝利は我にあり!
- ショートトラックの勇者!

伝承遊び

追って、追われて!

進め方

- ① 4人1組になり、円周を4等分した位置に立ちます。
- ② リーダーの合図で同じ方向へ一斉に走り、前の人の紙テープを数多く取った人が勝ちです。ただし、リーダーは

✓ URL

<http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/index.html>

デジタルブック

インターネット上で読めるガイドブックです。ホームページから閲覧できます。

ブックタイトル
アクティブ・チャイルド・プログラム
総ページ数 100P

ブックを読む

- Flash版でブックを開く
- HTML5版でブックを開く
- アプリ版でブックを開く

ActiBookアプリをダウンロード(無償)

Available on the App Store | Google play | Windows Store

動作環境

Flash Viewer

OS及びブラウザ

- Windows Vista、7、8
- Microsoft Internet Explorer 9.0以降 / Firefox 最新版 / Google Chrome 最新版
- Mac OS X v10.7、v10.8、v10.9
- Safari 最新版 / Firefox 最新版 / Google Chrome 最新版

※ブラウザでJavaScriptが動作する環境でAdobe Flash Player最新版がプラグインされている必要があります。
※タッチパネル操作は一部機能が動作しないことがあります。

※Adobe、Adobeロゴ、Flash、Adobe Flash Playerは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標または商標です。
※Apple、Appleのロゴ、Mac OSは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
iPhone、iPad、iTunesおよびMulti-TouchはApple Inc.の商標です。iPhone商標は、アイホン株式会社ライセンスに基づき使用されています。
※AndroidおよびGoogle Playは、米国および他の国々で登録されたGoogle Inc.の商標又は登録商標です。
※Microsoft、Windows、Windows Store、Windows Vista、Windows 7、Windows 8またはその他のマイクロソフト製品の名前および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

- ✓ PDFでのダウンロードや、有料での冊子販売についてはこちらから
<http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/776/Default.aspx>

スマートフォン&タブレット

Androidの方は、ホームページからのリンクおよびアプリストアから「アクティブチャイルドプログラム」で検索して、アプリをダウンロードできます。

※iOSの方は、ホームページからPDFをダウンロードしてご活用ください。

Ⅰ 幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会

「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」の効果的な活用法を周知することを目的に、地域のスポーツ少年団関係者等を対象とした講習会を開催しています。

講習会は、理論編と実技編の2部構成で実施しています。理論編では幼児期における身体活動・運動の意義、指導法等を学び、実技編では実際に運動遊びを体験しながら、指導のポイントを学ぶことができます。



- ✓ 11月から2月にかけて開催される講習会の日程・申込方法等詳細はこちらから
<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid/1061/Default.aspx>

特別企画

アクティブ・チャイルド・プログラムを取り入れているクラブ

[NPO法人 たかはまスポーツクラブ] <愛知県高浜市>

1 クラブ概要

スポーツ振興基本計画の総合型地域スポーツクラブ設置の趣旨に沿って、高浜市が中心になり、高浜市体育協会加盟組織・学校教員・当時の体育指導委員などから選出された代表者で構成された設立準備委員会を発足して、講習会・勉強会などをおこない、平成16年4月25日に設立総会を開催しました。

発足時の内容は、教室事業14教室、決算額795万円(内、市補助金550万円)スタッフ2名でした。高浜市は元々財政力の

弱い市で、市からの補助金はいずれ出なくなると告げられていましたが、クラブを継続推進するために高浜市の協力をいただき、クラブの資金づくりとして①高浜市スポーツ施設の運営・管理をする指定管理事業 ②高浜市のスポーツジム事業を受託しました。お陰様で現在でも教室年間会費はクラブ発足時と変わらず、子ども4,000円、大人6,000円で行っています。平成28年度教室事業は、25教室・2サークル・4講座となっています。

2 アクティブ・チャイルド・プログラムを取り入れるまでの経緯・実施までの取り組み

日体協の公認コーチ資格を持つ卓球指導者の神谷氏が子どもたちの指導に活かしたいと思い、コーディネーショントレーニングを取り入れようという情報を収集していく中で、SCネットワークあいちの研修会でアクティブ・チャイルド・プログラムに出会いました。卓球の指導の中での準備運動の一環としてアクティブ・チャイルド・プログラムの要素を取り入れて活動をしていましたが、競技を始める前の子ども達にも体を動かすことを好きになってもらいたいとの気持ちから、アクティブ・チャイルド・プログラムだけの教室を展開することとなりました。

教室は、平成28年度は4月から年間25回の開催を予定し、土曜日の午後に1時間教室を行っています。定員は毎回20人と

し、年中児から小学校6年生(未就学児は親同伴)を対象にしています。

参加者募集については、アクティブ・チャイルド・プログラムの名称だけではどのような活動をするのかわからないため、「遊びを中心とした楽しく自然と体を動かすことのできるプログラムです」と紹介することで、スポーツに特化したものではなく、楽しい活動を目的としている点をアピールしています。対象年齢を主に小学生としており、年齢によってできることに差があるので、低学年と高学年の二つに分けてプログラムに差をつけています。子ども向けのプログラムなので卓球の指導者仲間にアシスタントとして入ってもらったり、保護者の方にも声掛けなど簡単なお手伝いをいただいています。



SCネットワークあいち 研修会の様子

3

アクティブ・チャイルド・プログラムの効果・影響と現在の状況

4月からプログラムがスタートしたばかりなので、目に見えて効果が出てきているというわけではありませんが、アクティブ・チャイルド・プログラムを導入したことにより、卓球の教室に今までなかなか参加しなかった低学年の子どもたちが来るようになったり、このアクティブ・チャイルド・プログラムの教室をきっかけに卓球教室に参加する子も少しずつ増えてきました。また、プログラムによっては保護者も一緒に参加してもらい、親子で楽しめるような工夫もしています。



4 今後の課題・展望

指導者の神谷氏曰く「自分自身が現在勉強中なので、そこが一番の課題です」とのことでした。アクティブ・チャイルド・プログラムの教室を継続していくためには、指導者がプログラムの引き出しを数多く持っていなければならないことを実感しているとのこと。

昨年、大阪でのアクティブ・チャイルド・プログラムの普及講習会を受講し、今年度も講師講習会の受講を予定しています。その他にも広域スポーツセンター主催のコーディネーショントレーニングの講習会等にも参加し、自らの指導者の資質を高める努力をされています。活動場所が体育館という限られた場所になるので、その中でいかに

子どもたちを楽しませて、体を動かす喜びを体験してもらうことができるかが現在の課題とのこと。

こうした子どもたちが気軽に参加できるスポーツ教室を含め、NPO法人たかはまスポーツクラブは、常に高浜市民憲章にある『スポーツに親しみ、健康な体をつくります』を実践していくことを目指しています。そして、次世代を担う子どもたちの体力を育成し、ライフスタイルに合わせてスポーツを楽しむことや、年齢、興味、関心、体力、技術、技能レベルに応じ、定期的・継続的にスポーツ活動をするための環境づくりをしていきたいと考えています。

(愛知県クラブアドバイザー 山田 瞳)

クラブプロフィール

設立年月日：平成16年4月25日

所在地：愛知県高浜市

運営：会員数：720名(平成27年度現在)
予算規模：96,779千円(平成27年度)

有給職員：37名

クラブ内資格：日体協公認クラブマネジャー 1名
保有者数 日体協公認アシスタントマネジャー 2名
日体協公認競技別指導者資格 14名

特徴：愛知県で一番の小さな市ですが「子どもからお年寄りまで、スポーツに親しみ元気な一生を送ろう」という「総合型地域スポーツクラブ」として、スポーツ振興に努めています。市民・スポーツ関係者と行政の『思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま』のキャッチフレーズを大切に、市民の皆様と健康づくりに励んでいます。

■連絡先

| | |
|-----------|---|
| 郵便番号 | 444-1324 |
| 住所 | 愛知県高浜市碧海町二丁目7番地8 |
| TEL & FAX | 0566-87-5136 |
| Eメール | tsc-07@katch.ne.jp |
| ホームページ | http://www.tsc-7.com/ |

アクティブ・チャイルド・プログラムを取り入れているクラブ

「むれスポーツクラブ」 〈香川県高松市牟礼町〉



1 クラブ概要

むれスプレッシュ財団・牟礼町体育指導委員会・牟礼町教育委員会・町内各種競技団体が力を合わせ、「スポーツを通した元気なまちづくり」をテーマに、平成18年3月19日に、総合型地域スポーツクラブ「むれスポーツクラブ」を設立しました。

平成28年度は、19の交流大会・10の教室・いつでもだれでも参加できる2教室・1つのイベントを計画しています。なかでも本年度は、クラブ設立10周年記念イ

ベントを行う予定です。また、ノルディックウォーキングやポールウォーキング教室、フィットネス関係の教室、子ども向けに、ACC教室(アクティブ・チャイルド・クラブ)・フットサル教室を取り入れて、多くの会員のニーズに応じて「いつでもどこでもだれでも」参加できるスポーツを行い、「つくろう、みんなで元気なまちを!」というクラブのスローガンのように、元気なまちを作っていきたいと思います。

2 「ちびっこ体操教室」開催から「むれACC」へ

クラブでは、平成25年度から、幼児（年中・年長）と小学校1～3年生を対象とした「ちびっこ体育教室」を行っていました。この教室をはじめたきっかけは、会員から子ども向け教室の開催を希望する声が上がっていたことや、幼児期・学童前期の運動スキルを身につけることの重要性を感じていたからでした。

そして、教室を継続していく中で、平成27年度に岡山県で開催されたアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会を受講しました。ちびっこ体操教室とアクティ

ブ・チャイルド・プログラムの運動内容が似ていたことから、平成28年度より教室名を「むれACC（アクティブ・チャイルド・クラブ）」と変え、運動遊びを中心に行っています。

「むれACC」は、幼児（年中・年長）と小学生（1年生～3年生）に分け、毎週土曜日75分間、定員を16名とし、行っています。指導者・指導者補助を各1名配置し、本年度は幼児13名、小学生11名が参加しています。

3 アクティブ・チャイルド・プログラムを取り入れたことによる影響

アクティブ・チャイルド・プログラムを取り入れたことで、様々な効果が出ています。年中から教室に入った子どもは、最初はなかなか思うように身体を動かせませんでした。教室に入って1年も経つと身体が動かせるようになり、指導者の言葉もよく理解できるようになりました。また、運動が不得意だった子どもが色々なことができるようにもなりました。保護者からは「運動が苦手だった子どもが、いきいきと元気になりACC教室に行くのが楽しみにしている」という声もいただいています。まさに、遊びを

通して、子どもが身体を動かす楽しみを知り、様々な身体の動きを習得できる場になっているのではないかと感じています。

また、クラブとしても、子どもを対象とした教室を開催することにより、会員が増え、会費・参加料収入もあがるといった収益の面でもよい影響が出ています。

その他にも、幼稚園・保育所が異なる幼児が参加しているため、保護者同士もこの教室で知り合い、教室外でもコミュニケーションを取るようになるといったネットワークづくりの場にもなっています。

4 今後の課題

「むれACC」の今後の課題は、参加者の確保と指導者の育成です。ホームページやチラシなどで、保護者に対して幼児期にからだを動かすことの大切さをPRし、参加者を確保していきたいと考えています。また、指導者の育成においては、今いる指導者のほとんどが高齢化しているため、若い指導者を確保し、子どもからお年寄りまでが楽しく「いつでも、だれでも、どこでも」

スポーツができる環境を整えていきたいと思えます。

一方で、クラブ全体が抱える問題もあります。会員の減少、教室によって参加人数の差が出ていること、財源の確保、運営スタッフ・指導者の確保等です。これらの課題を、スポーツ振興くじ助成を受けている間にできるだけ克服して、自立したクラブ運営ができるように頑張っていきたいと思えます。

（むれスポーツクラブ
クラブマネジャー 落合 賢）

クラブプロフィール

設立年月日：平成18年3月19日

所在地：香川県高松市牟礼町

運営：会員数：886名(平成28年8月現在)
予算規模：950万円(平成28年度)

有給職員：1名

クラブ内資格：日本体育協会公認アシスタントマネジャー 4名

保有者数 日本体育協会公認エアロビック指導員 2名

日本体育協会公認テニス上級指導員 1名

特徴：むれスポーツクラブは、「平成の大合併」で「スポーツを通じた元気なまちづくり」をテーマに誕生しました。地域スポーツの担い手として、自主自立・受益者負担を原則とする公益性の高いクラブづくりを目指し、伝統のある各種大会・教室を継続して実施するとともに、より多くの住民が、「いつでも、どこでも、だれでも」スポーツに親しめるよう事業を展開し、「つくろう、みんなで元気なまちを!」というクラブの理念のように、元気なまちを作っているクラブです。

■連絡先

| | |
|-----------|---|
| 郵便番号 | 761-0121 |
| 住所 | 香川県高松市牟礼町牟礼152-10 牟礼総合体育館内 |
| TEL & FAX | 087-887-5081 |
| Eメール | mure-sportsclub@mb.pikara.ne.jp |
| ホームページ | http://wwwb.pikara.ne.jp/mure-sportsclub/ |

障がい者スポーツと総合型クラブ

一般社団法人 飛驒シューレ ＜岐阜県飛驒市＞

地域スポーツクラブへの障がい者スポーツの導入について、2016年のブロック別クラブネットワークアクション(NWA)で情報提供を行っておりますが、参加できなかったクラブも多数いらっしゃるかと思います。

そこで今回は、障がい者スポーツを導入しているクラブの事例紹介をいたします。



※このPDF内の写真は、障がいの有無に関係なくすべての子どもたち・大人の方たちを写しています。

1 クラブ概要

設立背景と現在までの経緯

4段階を経て、組織を固める。

2005年7月～2007年6月、3カ年計画・飛驒市体力向上健康増進モデル事業「山っこ倶楽部」として発足

→ 2007年7月、事業終了とともに「山っこ倶楽部」から「飛驒シューレ」と改名して活動継続

→ 2009年1月、一般社団法人格取得

→ 翌2010年11月、総合型地域スポーツクラブとして岐阜県体育協会へ届出

| 設立時のキーパーソン

宮下充正氏 (東京大学名誉教授/現・首都医校校長)

科学的な視点で事業展開するためのプロジェクトチーム チーム長

山田ゆかり

立ち上げ時の事務局担当と現在まで継続運営担当

| クラブ理念

ライフスキル (生きる力・甲斐性) を身につけること。こどももおとなもひとりひとりが「何ができる?」「どうすればいい?」を考え、相手を思いやりながら自主的・継続的に活動することを目指す。シュレのすべての活動はそのための「ツール」とする。

| 理念実現に向けた現在の活動状況

- 定期的活動場所を分散させ、メンバーの広域化を図る。

Little Tree Houseを拠点に、キッズクラブ (神岡小、古西小、古川小の学区)、シニア体操クラブ (神岡町)、アクアウォーク (宮川町)、HYSクラブ (飛騨吉城特支) などで分散して活動。

- 飛騨地区や他のスポーツ団体との連携 (協働) を推進。

メンバー以外の人々 (こどもたち) と共に運営、参加できる事業を季節ごとに定着させ、かつ継続的に展開。

(例) 4月バスケットボールクリニック、6月ウォーキング、7月キッズスイミング、8月宇津木妙子杯6時間ソフトボールゲーム、絵本ワーク、10月スポーツフェスティバル協力、11月テーピングワークショップ、KOD! (多種目スポーツ体験会)、12月グッドコーチングワークショップ、2月雪遊び、3月Allカップ+キッズテニスなど。

- 特別支援学校の協力を得てオルタナティブな活動を推進と同時に、高等部生徒、OB・OGをキッズクラブのリーダーとして育成・登用。

2 導入の経緯・種目等

私たちは「障がい者スポーツ」ではなく、「障がいをもったこどもたちとの協働活動」という考え方であることが大前提です。オルタナティブな活動の推進を心がけています。それが、障がいをもつこどもたちが、スポーツと触れあうための第一歩だと思っています。

※ オルタナティブ…既存のものに取ってかわる新しいもの

| 経緯

2014年春、総合型地域スポーツクラブのひとつの役割である障がいを持つ人々へのスポーツ普及を目的とする「事業申請案内」が岐阜県障がい者スポーツ協会からきた

- 申請し、認可された
- 事業内容を特別支援学校のこどもたちを対象にした
- 告知や声掛けで、特別支援学校PTAのご協力を得た
- ことあるごとにチラシを作成し、市内の特別学級にも配布
- 参加希望者の見学
- 2015年度Ⅱ期目を受託
- 事業受託の可否に関わらず、定期的な活動にしたい旨を参加者に提案
- 同意を得て、シュレ活動の一環とする (HYSクラブという呼び名をつける)

対象種目

対象種目をキッズテニスとスナッグゴルフ※にしている。動くボールと止まるボールの両方をプレーできる種目を揃えることで、子どもたちの特性をより活かすことが目的。定期的な活動はそれぞれ行い、イベントはキッズクラブのこどもたちと一緒に活動するため、障がいの有無に関わらず、シューレのメンバーは同じ種目を行う。

※年齢や体格差・技術差の区別なく、屋内でも安全に楽しめるゴルフ。

活動場所

なかなか踏み出せないこどもたちの気持ちを考え、日頃親しんでいる特別支援学校の体育館を会場にしたことが、安心安全という点で奏功している。

テニス

テニスに関しては、年2回、日本テニス協会から専門コーチが来てくださっているが、日頃の活動での指導者には保護者たちが携わっており、ともに活動をつくりあげている。



3 導入による効果・影響

定期的な活動はそれぞれの地域別になりますが、シューレの全体イベントはすべてのこどもたちがいっしょに活動するので、障がいがあるかないかはこどもたちにとって関係ありません。無意識のうちにいっしょに活動できることが大切です。

特に、特別支援学校高等部生徒やOB・OGメンバーは、キッズクラブのこどもたちの面倒をよく見てくれるので、イベントによってはリーダーやサポーター的な役割を担ってもらうことがあります。それは彼らにとっても重要な活躍の場であり、やりがい、生きがいを感じる場となっています。

4 今後の課題・展望

特別支援学校の生徒やOB・OGメンバーが、イベント時のリーダーやサポーターを担えるようなエデュケーションの場を作りたいです。

5 その他

障がいがある・ないで区別することが、当事者には差別と感ずることがあります。私たちは、障がいの有無、民族、宗教などにかかわらず、すべてのこども（人々）はイコールという考え方、生き方を、シューレメンバーひとりひとりに意識してもらえるような、活動方針を持っています。もちろん、日頃のこどもたちへの声掛けも同様です。思いやりの心を育てるには不可欠の考え方だと思います。また、スポーツの本質にも通ずると思います。

「障がいがあるこどもはスポーツ少年団に入りにくいという思いがありました。シューレの活動は、まさに望んでいた『こどものための定期的なスポーツ活動』なので、すごくうれしいです」という声を、特別支援学校に通っているこどもたちの保護者からいただいています。

「障がい者へのスポーツ普及」「障がい者スポーツ」と特別視せず、いつものように、いつもの人々といっしょに、楽しくスポーツをする、というスタンスが「うまくいくコツ」ではないでしょうか。



(一社) 飛騨シューレ
代表理事 山田 ゆかり

クラブプロフィール

設立年月日 : 平成17年7月1日(平成21年1月法人登記)

所在地 : 岐阜県飛騨市

運営 : 会員数:85名(平成28年10月現在)
予算規模:140万円(平成27年度決算)

有給職員 : 0名

クラブ内資格保有者数 : 日本体育協会公認アシスタントマネジャー 1名

特徴 : オルタナティブなクラブをめざしています。メンバー以外にも参加できる広域的な事業や連携(協働)事業を積極的に推進しています。

■ 連絡先

| | |
|--------|---|
| 郵便番号 | 506-1121 |
| 住所 | 岐阜県飛騨市神岡町殿1208-9 Little Tree House |
| TEL | 090-2529-7062 |
| ホームページ | http://hida-schule.info/ |

障がい者スポーツと総合型クラブ

NPO法人 あいずみスポーツクラブ

<徳島県板野郡藍住町>

地域スポーツクラブへの障がい者スポーツの導入について、2016年のブロック別クラブネットワークアクション(NWA)で情報提供を行っておりますが、参加できなかったクラブも多数いらっしゃるかと思います。

そこで今回は、障がい者スポーツを導入しているクラブの事例紹介をいたします。



1 クラブ概要

藍住町教育委員会・体育指導員(現スポーツ推進委員)が運営する5つの教室(障がい者、女性、シニア、ジュニア、親子)を主として平成16年に設立しました。

会員及び地域住民に対し、スポーツ活動の普及振興を図るとともに、生活習慣病等の予防を目的とした業務を行い、誰もが運動習慣等を身につけ、健康で明るく生きがいのある豊かなまちづくりに寄与することを目的にしています。

2 教室内容・実施までの経緯

町民スポーツニーズ調査の結果を受けた話し合いにより、すべての町民がスポーツ活動に参加できるように「障がい」を持つ人のスポーツ教室をつくらうという意見がありました。障がい者スポーツ指導員・レクリエーションインストラクター・スポーツボランティア等に呼びかけ、障がいのある人・障がいのない人が共にスポーツやレクリエーションの楽しさを体験し、ふれあいを高めることを目的とした「障がい者ふれあいスポーツ教室」を実施しています。

「障がい者ふれあいスポーツ教室」は、クラブ設立前に教育委員会が運営していた教室を引き継いで行っています。この教室は、隔週（1回につき1時間30分）で開催し、ソフトバレー、囲碁ボール、ラージボール卓球、ドッチビー等のニュースポーツを行っています。参加者は知的障がいのある方が多いのですが、身体障がいのある方もともに参加されており、障がいや年齢に応じて、それぞれができる範囲で参加をしています。教室実施にあたっては、ニュースポーツを実施するのに必要な用具のみ準備しており、特に障がい者スポーツだからといって、特別なものを準備しているわけではありません。

また、「障がい者ふれあいスポーツ教室」とは別に、運動指導と栄養指導を行っています。これは、障がい者施設より依頼を受け、障がい者が抱えている問題の1つである運動不足の解消を目的とし、肥満傾向にある人たちを対象にしています。運動指導では週に1回、参加者のニーズを聞きながら興味のわく継続しやすいものとして、歩くことからバドミントンやバスケットボールまで行っています。栄養指導では健康状態を把握し、カロリーの取り方や、調理実習で野菜の切り方・味付けの工夫等を丁寧に指導しています。

3 地域への影響

障がい者がスポーツ教室に参加することにより、声を掛け合うなど、お互いにふれあいが多くなりました。障がい者の活動範囲が広がりを見せると共に、障がいのない人の障がい者に対する理解が深まり双方にとって良い変化が現れました。

4 今後の課題・展望

まずは障がい者が積極的にイベントに参加していくよう働きかけています。その次に一つのブースを障がい者が運営し、最終的にはイベントの企画・運営に関わっていけるようになればと考えています。

障がい者スポーツを推進していくには、指導者の育成が必要になります。研修会等を多数開催するなどして、理解を深めることによりふれあいが増えます。

総合型地域スポーツクラブも設立後10年を超えるクラブが増えてきました。役員やクラブに関わる人達の世代交代の時期にきています。「創るより継続が難しい」と言われるように、まずは主催者側が楽しむことを忘れずに、創設時の「思い」を継続し、進化する事に挑戦していきたいと思います。

（あいずみスポーツクラブ
クラブマネジャー 住田 瑞子）

クラブプロフィール

設立年月日：平成16年10月 あいずみスポーツクラブ設立
平成19年10月 NPO法人格取得

所在地：徳島県板野郡藍住町

運営：会員数：1637名（平成28年7月現在）
予算規模：19956千円（平成28年度）

有給職員：11名

クラブ内資格：障がい者スポーツ指導員、健康運動指導士、
保有者数 健康運動実践指導者、レクリエーションインストラクター

特徴：幼児から高齢者まで幅広い年齢層に加え、切れ目なく参加できる
教室を展開しています。

■連絡先

| | |
|-----------|---|
| 郵便番号 | 771-1251 |
| 住所 | 徳島県板野郡藍住町矢上字原230-1 |
| TEL & FAX | 088-692-5000 |
| Eメール | ai-sport@mxi.netwave.or.jp |
| ホームページ | http://wwwi.netwave.or.jp/~ai-sport/ |

障がい者スポーツと総合型クラブ

NPO法人 黄金井倶楽部 〈東京都小金井市〉

地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することが望まれています。

今回は、障がい者と健常者がともに楽しむ教室を開催しているNPO法人黄金井倶楽部「リフレッシュくらぶ」の取組をご紹介します。

1 クラブ概要

平成16年度より、文部科学省の推進事業・総合型地域スポーツクラブ育成支援指定クラブとして小金井市内で活動を開始した3つのスポーツクラブ（アミューズ・クラブ、むさしの野川クラブ、小金井ベルタ）がひとつになって、総合型地域スポーツクラブとして設立されました。

今年度、設立10年目を迎えた黄金井倶楽部は、3つのクラブの特性をいかしつつ、老若男女を問わず、いつでも・どこでも・だれでも・いつまでもスポーツに親しむことができるように、地域密着型のスポーツクラブを目指し活動しています。

【実施種目】

卓球、リフレッシュくらぶ、パドルテニス、フラダンス、小学生陸上教室、ヨガ、エアロビクス、ピラティス、太極拳、ママエクササイズ、親子スキンシップ体操、スポーツ吹き矢、女子サッカー、中学生野球、ハイキング、上級救命講習、輪投げ大会、ティーボール大会のほか、市委託事業を実施

2 教室内容・実施までの経緯

今回、取材に伺ったリフレッシュくらぶは、「集う・遊ぶ・笑う」をテーマにみんなで工夫しあって、いろいろな種目に挑戦しています。気軽に、マイペースに、素敵な仲間と「笑う！月曜日」として、大変好評です。

『どのようなきっかけで障がい者も参加できる教室を始めたのですか？』

教室指導者の北原佳代先生は、「勝ち負けや上達ばかり気にしてしまうと、そこからこぼれてしまう方が出てしまう。スポーツの楽しみ方は人それぞれで、気軽に参加できる場も必要」と話します。数値として表れる効果だけでなく、気軽に足を運ぶことができ、その日集まった仲間

と楽しく遊び、笑うだけでも心の健康、さらには身体の健康にまで目に見えない効果があるのではないかと考え、「リフレッシュくらぶ」を提案したそうです。北原先生の斬新な提案や健康づくりへの情熱に背中を押され、黄金井倶楽部の教室としての開催に至りました。



『障がい者も一緒に参加できる教室では、どんな工夫がありますか』

■ 障がいの有無は、誤差範囲。「障がいに寄せる」ことはしない。

この教室は、障がい者の方も気軽に参加することができます。しかし、障がい者にルールを合わせたり、ハンディ（特別対応）を与えたりせず、できる範囲でほかの参加者と同じく様々な種目にチャレンジできるようにしています。このような誰もが参加できる受け皿として教室を開催できているのは、北原先生の指導の工夫が大きいです。

健常者と障がい者では、スポーツの行いやすさが多少異なるかもしれませんが、健常者であっても高齢になると身体の不調や持病などにより、多少身体の動きに不自由な点が個人差としてあらわれます。例えば手がうまく使えないときは、足の運動をすることはできません。その「少しの差」を「誤差範囲」として、みんなが楽しめるよう工夫することで補っています。

教室ではバレーボールや卓球・ミニテニスを取り入れていますが、車いすの方が参加する際には「普通の卓球ではなかなかラリーが続かないから、ボールを転がしたらどう？」との発案を受け、サウンドピンポン(※1)を取り入れ、ルールもアレンジしたところ、以前よりも盛り上がりを見せたということです。

※1 サウンドピンポン(サウンドテーブルテニス)

音のでるボールを台上で転がして打ち合う、視覚障がい者のための卓球のこと。

また、バレーボールでは車いすの方に限らず、腰痛のある方やずっと立っているのが辛い方もいたことから、参加者の発案でネットに一番近い前線のポジションは全員椅子に座ることをルールとし、さらに前線の方はプレイ中に立ってはいけない(立った場合は減点!)こともルールに追加したところ、リフレッシュくらぶで一番盛り上がる種目となりました。みんな夢中でプレイしていると、椅子に座っている前線のひともあとちょっとでボールに手が届くと思って、つい立ち上がってしまいます。この珍プレーが笑いの渦になっているそうです。無意識に両手を伸ばして、立ち上がってしまうことから「タケノコバレー」と名付けられました。

このようにリフレッシュくらぶでは、不自由を障がいのある方だけのハンディとするのではなく、みんなで体験し、逆にその不自由すら楽しみに変えてしまっています。北原先生は、「みんな考えて、みんなに合わせて楽しめるルールが大事。そうじゃないと、健常者の方は、障がい者の方に合わせてあげていると感じてしまい、楽しみが減ってしまう。この教室は、無理なく、できる範囲で楽しんでもらいたい。お休みするのも少し遅れて参加するのも全部自由です」と話しています。リフレッシュくらぶの和やかな雰囲気は、参加への気軽さからきているのかもしれません。

■ 道具のない時代の経験を活かす。

昔は、今のようにスポーツ用具もなく、道具を自ら作ったり、遊びを考えて遊んでいました。リフレッシュくらぶに参加している皆さんは、そのような幼い頃の経験をこの教室でも活かしています。

教室の会場である会議室はカーペットの床であり、体育館からバレーボールの支柱やネットなど用具を運び込むことができません。そこで出てきたアイデアが『ゴーヤのネットを使った

らどうだろう?』というものでした。さっそく、緑色のゴーヤネットの先端に白いテープを貼り、設置したところ、見事に機能を果たしたのです。また、卓球は会議室の長机を組み合わせて卓球台にするなど、身近にあるもので代用しています。「用具が充実していることに越したことはないが、なくてもできる」というのが北原先生の考えです。

『参加者を増やすために工夫していることはありますか』

■ 真剣勝負で童心に戻る。

ルールを少しアレンジしたり、用具や会場にひと工夫加えたりすることで、障がい者も健常者と同じようにスポーツ活動(クラブ)に参加することが可能となります。しかし、毎週取り組む種目では必ず最後に勝敗をつけ、運動を通じて、勝負にチャレンジする楽しさを創り出しています。せっかく一生懸命プレイしても、結果がうやむやでは子ども騙しのようで、楽しさにも飽きがきてしまいます。一生懸命やるのであればきちんと得点をカウントし、対戦結果を発表する。この勝敗がつく楽しさが、このリフレッシュクラブの盛り上がりにもつながっています。



■ 色々な参加のかたちがある。

黄金井倶楽部の各教室の無料体験は1回と設定されていますが、このリフレッシュクラブのみ複数回の無料体験を可能としています。それは、この教室は、色々な種目にチャレンジすることを特徴としており、たまたまバレーボールの日に体験した方が、「これは私には疲れて無理だわ」と参加をあきらめてしまうこともあったため、参加者からの体験談も参考に、複数回の無料体験ができるように変更しました。天野クラブマネジャーは、「いろいろな参加のかたちを受け入れてもいいと思った。それが総合型クラブの良いところなんだと思う」と話します。

天野クラブマネジャーや北原先生に共通するのは、みんなで考えて、みんなのアイデアを取り入れてみることです。役員や事務局スタッフだけが運営の主体となるのではなく、指導者や参加する会員のちょっとした気づきや「こうしたらどうだろう!」という閃きをうまく取り入れることが、黄金井倶楽部の10年を支えてきたのだと思います。

■ 私の教室に孫と参加することが楽しみ!

リフレッシュクラブの参加者のなかには、「来週、孫が冬休みで遊びに来るから、一緒に教室に参加するんです。前にも参加したことがあって、おばあちゃんの教室にまた行きたい!って楽しみにしてるんです」と楽しそうに話してくれる方もいらっしゃいます。他にもお孫さんと一緒に参加した方々もおり、いつもの参加者に小さな子どもが加わるだけで楽しさが倍増する様子でした。

また、参加者からは「気分転換になる。自転車で30分かけて通っているが楽しくて続けられる」「お話しながらも、足踏みしたり、肩をまわしたり運動を行うので、この教室は無駄がないし、飽きないんです」「テレビでやっていたことなど、最新の運動も先生が取り入れてやってくれるから、身体の動かし方などたくさん教わることができる」との声もあり、この教室が単なるプログラムの創り手と受け手の関係ではなく、みんなで楽しみを創造しているようでした。



黄金井倶楽部は、10年の歩みのなかで会員に「マイクラブ」として確立され、温かいメンバーシップのなかでゆっくりと育っています。

3 今後の課題・展望

『最後に、これからの課題と展望をお聞かせください』

黄金井倶楽部はこれまでの10年間色々な経験をさせていただき、総合型地域スポーツクラブとしての位置を築いてくることができました。参加者や教室スタッフをはじめ地域の方々の意見に耳を傾け、できることを積極的に取り入れてきました。「リフレッシュくらぶ」もその一つです。

障がいを持つ方の参加については、ご本人の状況と意向をよく確認することと、他の参加者の皆さんの負担にならず、なおかつ助け合う雰囲気づくりが大切だと考えます。

現在、この活動が障がいを持つ方に十分に周知されているとはいえません。アプローチの方法を考えながら、地域の誰もが一緒に健康増進を目指す活動をすすめていければと思っています。



【お話を伺った方】

- 理事・クラブマネジャー
天野 和代 氏 (右から1番目)
- リフレッシュくらぶ指導者 / 多摩総合精神保健福祉センター・中部総合精神保健福祉センター スポーツ講師
北原 佳代 氏 (右から2番目)

クラブプロフィール

設立年月日 : 平成18年4月1日

所在地 : 東京都小金井市

運営 : 会員数 : 380人 (平成28年8月現在)
予算規模 : 19,650千円 (平成28年度)

有給職員 : 5名

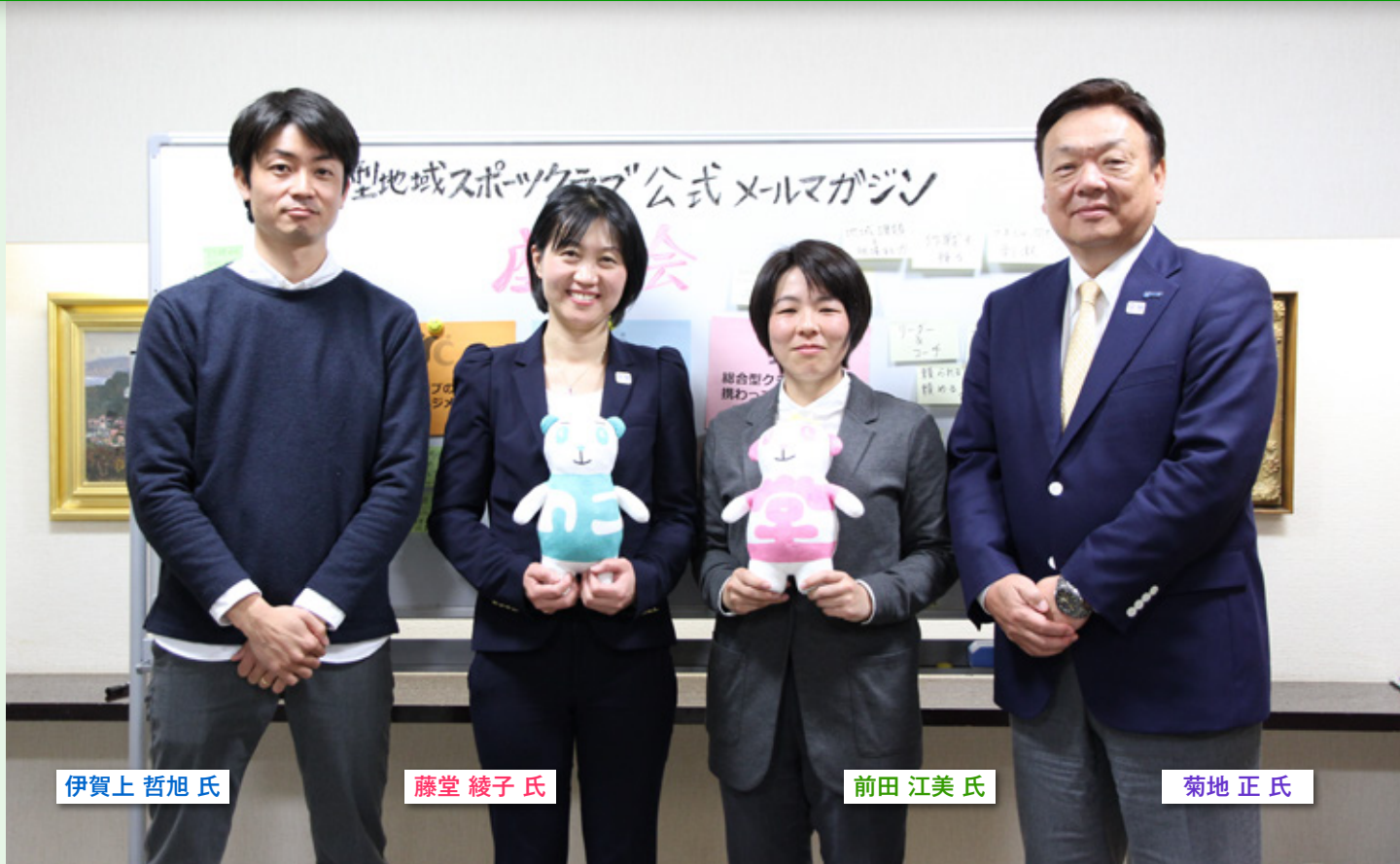
特徴 : 黄金井倶楽部は小金井市にある唯一の総合型地域スポーツクラブです。「だれでも」「いつでも」「世代をこえて」気軽にスポーツや文化活動を楽しみながら、心身ともに健康になり地域の人たちとふれあいの輪がひろがることを目指しています。

■ 連絡先

| | |
|--------|---|
| 郵便番号 | 184-0015 |
| 住所 | 東京都小金井市桜町2-2-31 上水公園運動施設管理棟内 |
| TEL | 042-406-2280 ※平日(月~金) 9:00~17:00 |
| FAX | 042-406-2290 |
| ホームページ | http://koganei-club.com/ |



総合型クラブで活躍する 公認クラブマネジャー



伊賀上 哲旭 氏

藤堂 綾子 氏

前田 江美 氏

菊地 正 氏

総合型クラブの自立・自律に向けて、活動基盤をより充実させるためには、効果的な事業計画を企画・立案できる人材が求められます。日本体育協会では、そのような人材を育成するために、日本体育協会公認クラブマネジャー資格（以下、公認クラブマネジャー）と日本体育協会公認アシスタントマネジャー（以下、公認アシスタントマネジャー）を養成しています。

そこで今回は、日本体育協会公認クラブマネジャー資格を持ち、総合型クラブの現場で活躍されている方々に、マネジメント能力の重要性や公認クラブマネジャー資格がどのように普段のクラブ運営に活かすことができているか、クラブ運営にとって必要となる人材等についてお話しいただきました。

座談会メンバー

- 伊賀上 哲旭 氏 (NPO法人 今治しまなみスポーツクラブ クラブマネジャー／愛媛県)
- 藤堂 綾子 氏 ((公財) 岐阜県体育協会 クラブアドバイザー／岐阜県)
- 前田 江美 氏 (スポーツ・レクリエーション倶楽部くせ クラブマネジャー／岡山県)
- 菊地 正 氏 (当メールマガジン編集委員長：NPO法人 高津総合型スポーツクラブ SELF副理事長・クラブマネジャー／神奈川県)

1 クラブマネジャーを中心にしたクラブの体制づくり

司会: 今日にはクラブマネジャーとして現場で活躍されている方々にお集まりいただきました。みなさんのクラブでは現在どのような体制でクラブ運営をされていますか？ 藤堂さんはクラブアドバイザーとして岐阜県内の様々なクラブをご存知だと思いますが、いかがでしょうか？

藤堂: 岐阜県には県がクラブを認定するという制度があるんですね。私はその認定された64クラブを訪問したり、広域スポーツセンターの補助事業の案内や研修会を開催したりしています。県内全クラブの中で公認クラブマネジャーを取得しているのは16人ですが、全員が現在クラブマネジメントに関わっているかというところではないんです。また、人によってクラブ内でおかれている立場も違います。公認クラブマネジャーを取得した人がもっと活躍できればよいのですが、そのあたりはこれからの課題だと思います。



藤堂 綾子 氏

瑞穂市の「NPO法人 なかよしクラブみずほ」は公認クラブマネジャーが3人（現在は2人）いるので、理念などの共通理解ができていて、クラブ運営がやりやすいということでした。他にも、理事長や事務局スタッフの中に、公認クラブマネジャー資格取得者がいるクラブは、成長を遂げていると感じます。クラブの後継者探しという面から考えても、複数人の資格取得者でクラブ運営を行っていくことは大事なこともかもしれません。

前田: 公認クラブマネジャーで常勤は私だけですけれども、非常勤事務局員に1名、運営委員に2名の公認アシスタントマネジャーがいます。

伊賀上: 公認クラブマネジャーが私を含めて2人、公認アシスタントマネジャーが2人です。今治市から約40施設を指定管理者として受託しており、施設管理とクラブの運営を分担してマネジメントしているという感じですね。

菊地: 公認クラブマネジャーは僕1人ですけど、スタッフは複数名います。マネジメントする人が複数人いる場合は、イメージを共有することが重要でしょうね。そこがずれていると難しいと思います。役員等の上の立場と、現場にいる立場では考えが違うこともあるでしょうし。伊賀上さんのような若い方がしっかりやっているのは非常に良いことだと思います。でも、間に入って大変だったりしませんか？（笑）



伊賀上 哲旭 氏

伊賀上: 大丈夫です（笑）。信頼関係ができていますので、円滑にまわっています。

司会: 実際に、クラブマネジャーとして働いてみて、気になっていることはありますか？

伊賀上: 最近感じていることですが、クラブマネジャーの社会的な地位がもう少し認められないのかなと思っています。スポーツの指導者は、プロの指導者が出てきたりして活躍していますけれども、それを支える事務局やクラブマネジャーはまだ認識されていません。まだまだ「ボランティアでしょ？」と聞かれるような状況なので（笑）。

どうしても学校部活動の「マネージャー」と同じイメージがあるんですけど、クラブマネジャーの価値、地位を上げていくのが大事だと思います。そのためには、クラブマネジャーの必要性をもっと成果として示したり、各種事業はもちろんアウトプットの質を高めていかないと認められないというのはありますね。

菊地：ただ、そのようなクラブマネジャー全体の地位向上まで考えられる人材を各クラブに求めるのは、なかなか大変かもしれません。例えば、財源をどこかに支援してもらうか、いくつかのクラブがまとまってお金を出したりして、1人のスペシャリストを雇用するのもいいと思います。もちろんクラブアドバイザーの方は一生懸命にやったださってますけど、ひとつの都道府県全体を見るのはやっぱり難しいですもんね。



菊地 正氏

藤堂：残念ながら、そうなんですよね。

司会：クラブマネジャーとして地域との関わりは必要だと思いますが、行政や学校とはどのような連携をしていますか？



前田 江美氏

前田：行政から防災関係の事業委託を受けて、自主防災組織設立推進や防災キャンプなどを行っています。まったくスポーツとは関係ないんですけども、行政から声をかけていただきました。たぶんクラブ設立10周年記念事業を盛大に行ったり、地域にクラブの存在を発信してきたかもあるんで、クラブが認めてもらえたのかなというのはあるんです。今は、介護予防の分野でも教室を実施してほしいと行政からは言われてるんですけど、まだそこまでは取り組めていません。

行政との調整役にマネジメントが得意な人をあてて、情報を取ってきてもらっていたので、私としては行政とクラブが良いネットワークを作ることができていると思います。

伊賀上：僕は、クラブのある今治市ではなく松山市の出身なので、地域にゆかりがあるわけじゃないんです。いろいろと活動をしていると、学校のつながりも大事だったりするので「今治出身だったらもっとこうできたのにな」と思うことはあります。でも、活動していく中で地域や学校の方々とは良い関係が築けていると思います。

2 クラブ運営に必要な人材とクラブの成長

司会：クラブの存在をクラブ主導で地域に発信していくことが重要ですね。クラブマネジャーとして大切なことや、後継者の育成についてはどう思われますか？

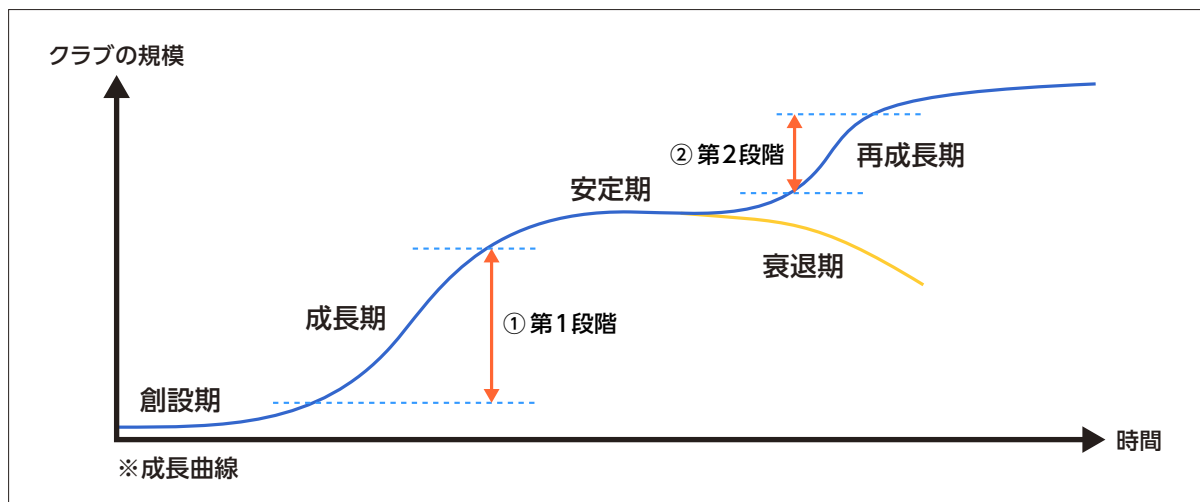
菊地：僕は、クラブマネジャーの一番大事なことは人をつなげていくところだと思ってます。それはクラブの中だけじゃなくて、当然地域の中をつなげていかなきゃならない。そういうことができる人材を育てていないというよりは、今はまだそういう仕組みがないという現状があるので、総合型クラブのマネジャーはあえてそういうところに目を向けて地域に出て行かなきゃならないですね。

あと、人づきあいが苦手な人はクラブマネジャーには向いてないと思います。人をつなげるには人から好かれる力も必要ですね。

藤 堂：多くのクラブを見てきて、やっぱり人を育てていかないとクラブの成長はないと思います。クラブマネージャーが力をつければクラブが伸びるとは思いますけども、長期的に考えるとこれからの人材を育てていかないといけない。
そうすると、例えばスポーツ少年団のリーダー制度のように、やっぱり子どものうちからクラブに親しむ環境を作っていくのが大事だと思いますね。急にクラブスタッフを探そうとしても関わりがなければなかなか興味も湧きません。中学生や高校生のときから地域で一緒にやっていくようにすれば、その子たちが大きくなってクラブで活躍してくれる。そういうイメージが描けるんじゃないかと思います。

伊賀上：人材育成という点で、僕のクラブはユニークな方法を採用していると思います。実は、若い職員たちにうちの理事が経営している地元企業の新人研修と一緒に受けてもらってるんです。社会人としてのマナーとか、収入・支出など経営についての知識とか、そういうことですね。それも最初の何週間だけではなく、2年間くらい定期的に続けています。そこで学んできたノウハウをクラブ内でもフィードバックしていくという循環ができていますね。
また、「本を読むこと」「人に会うこと」「現場に行くこと」、そこで学んだことを「実践すること」をみんなが意識しています。学ぶ機会を多くつくって、それを現場で発揮する。それが人を育て、みんなで成長することにつながるのかなと思います。

司 会：クラブには、ぐんと成長する第1段階があると思います。成長といっても、会員数なのか収益の数字なのか、それともメンバーシップの充実なのか、いろいろならえかたがあると思います。これはクラブの成長をグラフにしたもので、皆様はすでに最初の成長期を迎えられていると思いますが、クラブとしては現在どんな状況でしょうか。



前 田：私のところは、現在成長できているとは言いづらい状況なんです。ここから再成長するためにいろいろ模索していますが、クラブとは別に法人を立ち上げることを考えています。なぜ新たに立ち上げるかというと、会費以外での収入を確保するためであったり、委託事業を受ける前準備であったりというのが主な目的です。クラブがもうワンステップ上がるために、今が正念場だと思っています。

伊賀上：うちは創設して10年になります。この10年は、創設者である理事が立ち上げた当初の想いを実現していこうということで走ってきたんですけども、それが少しずつ形になってきたとき、次の10年をどう描くのか。これまでと同じように理事の想いをトップダウンで実現していくというのはちょっと違うんじゃないかと思っていて、理事自身も「この後は自分たちで考える」というスタンスなんです。これから、どうビジョンや方向性を描いて動いていくかが今の課題です。

菊地：うちはNPO法人格を取って11年目、準備段階からだとして14年で、現在は安定期の段階です。企業もそうですけど、再成長期というのは本当に難しい。もしかしたら創業時よりも難しいかもしれません。企業なら、再成長するには相当なリスクを負わないといけない。投資するとか、人を増やすとかしないと変わらないわけですよ。じゃあ我々はどうするかというと、お金はなかなか出せないわけで、本当に難しいと思っています。現実的にはクラブを急激に大きくしていくことは無理なので、やっぱり地道に事業を増やしていかないとダメ。今、ある事業にクラブと行政で取り組んでいますが、これは行政ではなくクラブ主導です。やっぱり行政の人でも、スポーツが好きな人はいても「スポーツの専門家」はあまりいないわけですよ。しかも3年とかで異動があって、担当者が変わってしまう。結局は我々がリーダーシップを持って推進していかないと進まないんですよ。もちろんまだまだの段階だけど、目標と夢を持って計画を進めていかないと、再成長という坂は上れないと思います。

3 さらにクラブを発展させるために

司会：これからさらにクラブを発展させていくためのスキルや、クラブマネジャーにとって必要な要素を、3つ挙げていただけますでしょうか。

菊地氏

- 現実的な計画
- 前へ進む力！推進力！
- たくさんの仲間

菊地：大きな夢を追いかけるためには、同時に現実的な計画がなければいけません。あと、マネジャー個人でも、組織としても、前へ進む推進力は必要です。ちょっとずつでも前に行くという気持ちがみんなにあるかどうかですね。その気持ちが行政とか地域の人たちにも伝わって、「行こうか！」という雰囲気ができるので。それと、たくさんの仲間。現場だけではなく、経理ができる人などいろんな人がいてプロジェクトが進められると思います。でもやっぱり、最終的には自分の夢だと思いますよ。例えば「子どもたちの遊び場がほしい」→「そのためにはどうすればいいのかな」というところから始まって、そこから現実的な話になるわけです。現実的に夢を叶えるために、さっき言った3つの要素が必要になるんだと思います。

司会：菊地さんを見ていて思うのは、今考えていることを計画段階でも人に話してくださいませよ。そこがなかなかできないと思います。

菊地：おしゃべりなんですね(笑)。あと、僕は失敗してしまうかもしれないけど、みんなに話せば誰かが成功してくれるかもしれない。それだけのことですよ。

前田氏

- 人と話す、会話術
- 人に頼る
- 先を読む

前田：自分の性格は、キャプテンではなく副キャプテンタイプなんです。だから、前に行ってくれる人がいれば、自分は後ろでいろいろ押していく力があると思います。ただ、会員さんと話すとか役員さんと話すとか、そういうところがどうしても苦手な部分があって。いろいろ準備して話す場ではなく、いきなり会話が始まる場面が苦手なので、自分自身で殻を破らないと成長はないかなと思っています。



「人に頼る」というのも自分の中の課題です。人に任せたほうがいいときでも「自分がやればいいのか」と考えてしまって、なかなか他の人に頼めない時期があったんです。でも、頼まないと次に広がらないし、役員さんたちにも理解してもらえないので、今後も頼る気持ちを持つと思っています。また、情報を集めたり、将来の理想をイメージしたり、先を読んでいかないといけないですね。「こうなればいい」と思うだけではなく、一歩先のことを考えてみんなを動かすようにしていければと思います。

藤堂氏

- 多くの情報の中から、自分の地域に合ったスタイルを見つける！
- ファシリテーション能力
- 任せる

藤堂：私自身のこと、また岐阜県のクラブのことも含めてお話しします。

クラブの方に聞くと、公認クラブマネジャー資格を取ったことで多くの情報が得られるようになっていくようです。その上で、自分の地域に合ったスタイルをみつけられるかが課題ですね。他の事例を見て「これはすごいな」と思っても、自分のクラブに合わせたスタイルを見つけるとうまくいきませんから。私も、客観的に見て「こういうケースだったらこのクラブとつなげば良い結果になるかな」と提案できるスキルを持ちたいと思っています。

あと、ファシリテーター的な能力を身につけることは大事ですね。人と人をつなぐことができますし、クラブの人にもそういった能力を身につけてもらうことが大事です。理事会

で情報の共有をするときに、ホワイトボードで可視化してみんなで考えると、そういうスキルがあるといいのかなと思います。役割分担にしても課題解決にしても、その能力があれば有効だと思うので、私も身につけていければと考えてます。

また、前田さんがおっしゃったように人に任せること。いろいろな仕事を抱えているマネジャーさんも多いので、必要になる能力だと思います。



伊賀上氏

- 経理・会計
- 伝える力
- ファシリテーション能力
- あきらめない実行力

伊賀上: 4つになってしまって申し訳ないです(笑)。まず、経理や会計は単純に自分に足りない部分ですね。もちろん専任の方はいますが、よりクラブ運営を理解するために身につけていきたいです。
伝える力やファシリテーション能力は、思っていることをちゃんと伝えて、みんなで考えていくために必要です。そこがしっかりしていないといい仕事はできないと思います。
また、初心というか最初の頃に抱いていた夢のおかげでここまでやってきたと思ってますので、そこは大事にして、あきらめずに実行していきたいですね。いろんな人に助けをもらいながら少しずつ形になってきたので、これも大切なことかなと思ってます。

4 公認クラブマネジャー養成講習会に参加して

司会: クラブとしてこれからの計画を立てる際、公認クラブマネジャーの養成講習会の中で作成した「事業計画書」(5年計画)をどのように活用していますか？

藤堂: 同時期に養成講習会を受けた方々にも聞いてみましたが、すごく活用して更新しながら使ってる人もいます。参考資料として周りを見せて事業を実現していたり、私も事業計画書を基に提案して教室を開いたりしました。「やっぱり作ってよかった」という声も結構聞きますね。

伊賀上: すべてが事業計画書どおりにいっているわけではないですけど、教室の計画は取り入れてやったこともありますね。部分的には活用できています。

前田: 私は、ちょうどこの座談会の3日後に臨時総会を開いて会費の改定を諮ることになっています。私が提出した事業計画書は、「スポーツ振興くじ助成後をどう乗り越えるか」というテーマで会費の改定を見据えて作成しました。だから、役員さんに伝えるときの資料としても活用しました。数字の部分はもちろん修正しましたが、計画を考えるベースとしてとても役立ちました。

司会: 公認クラブマネジャー資格の取得によって、何か変化や影響はありましたか？

前田: 受講したときは、クラブのある真庭市からもう1人受講していたこともあり、今も連携をとって、イベント等もいろいろと一緒にしています。

藤堂: 岐阜県は16名が公認クラブマネジャー資格を取っていますので、他県に比べると公認クラブマネジャーのモデルケースが身近にある環境だと思います。同時期に養成講習会を受講した参加者の中にも「あんなマネジャーになりたい」ということで受けている方がいました。

あとは連絡協議会ですね。岐阜県では「ぎふ清流の国SCネットワーク(略称:清流ネット)」というんですけども、その常任委員もほとんどが日体協公認クラブマネジャー資格を持っているんですね。なので、情報共有という面でもメリットがあると感じています。

伊賀上: その年の参加者とのつながりができたことで、いろんなタイミングで同期が集まったり、それこそFacebookなんかでグループを作って情報交換したりしています。いろいろと刺激しあえる仲間ができたのが大きいなと感じています。

司会: 伊賀上さんより参加者とのつながりというお話でしたが、岐阜県は、公認クラブマネジャーが中心となったプロジェクトを実施されてますよね？

藤 堂：はい。岐阜県では、ぎふ広域スポーツセンターが公認クラブマネジャー資格保有者をプロジェクトメンバーとして委嘱して、事業に協力してもらった「クラブマネジャープロジェクト」を実施しています。



委嘱状交付式



プロジェクトメンバー

このプロジェクトの根幹は、「クラブがクラブを育てる」ということです。各クラブが外部の力を必要とするときに、各クラブにプロジェクトメンバーを派遣しています。謝金と旅費の費用は、すべて広域スポーツセンターが支払う形になります。

平成26～27年度は、クラブマネジャーにお願いしてクラブに行ってアドバイスしてもらっただけだったんですけど、28年度からはクラブ訪問だけでなく、市町村に出向いてクラブ設立についての話をしたりしています。2ヶ月に1回の県広域スポーツセンターとの合同会議では、クラブの支援や広域事業、スポーツ少年団との連携などについて話し合っただけで「こうやったらいいんじゃない」という意見をプロジェクトチームのクラブマネジャーの方からもらったりもしています。このプロジェクトチームによって、私とマネジャーの方たちの信頼関係も強くなりましたし、マネジャーさん同士もざっくばらんに提言して刺激しあうような関係になったと思います。

また、岐阜県では、公認クラブマネジャーや公認アシスタントマネジャー資格の取得にあたって経費の補助をしています。クラブマネジャーの資格を取った後に、自分のクラブだけではなく所属する都道府県のために力を貸すという場ができれば、クラブマネジャーさん自身も成長できるのではないかと思います。

菊 地：先日、岐阜県の研修にお邪魔しましたが、岐阜県は特にすごいですね。クラブと県行政が素晴らしいパートナーシップを持ち、予算もびっくりするような金額を付けていただいて、アドバイザーもクラブもそれにこたえて一生懸命進取組んでいる姿がはっきりと見えました。講師で呼ばれましたが、大変勉強をさせていただきました。

神奈川県では、公認クラブマネジャーが中心となり、一般社団法人神奈川県総合型スポーツクラブネットワーク(KSN)を組織しています。年に4～5回の理事会、3回のクラブマネジャー研修会、2回のクラブ定例会・総会、1回のクラブ交流会などをクラマネの皆さんと計画、実行しています。予算はほとんどありませんが、皆様からお預かりした会費を活用し、将来の事業化に向かって活動しています。

これから、このような法人化された中間支援組織がお互いに協力し合い全国活動につなげていくことが、クラブ連携に結びついていくと思っています。

最後に 全国のクラブマネジャーへ伝えたいこと



座談会メンバーの皆様に、全国のクラブ関係者へのメッセージをいただきました。

伊賀上 哲旭 氏

NPO法人今治しまなみスポーツクラブのクラブマネジャー。スポーツ施設の管理運営、教室やイベントの企画など、今治市を拠点にスポーツマネジメントに携わる。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー



「想いは人をつなげ 人を育てる」

誰の言葉でもないんですけど、なんとなくずっと大事にしてきた言葉です。やっぱり想いというのが原点にあって、その想いから動くことによって人とつながったり、助けてもらったりして、自分自身も成長し、また周りのメンバーも成長していくんだと思います。皆さんとこの想いも共有したいと思います。

前田 江美 氏

スポーツ・レクリエーション倶楽部くせクラブマネジャー。スポーツ推進委員がきっかけでクラブ設立準備委員になる。クラブ設立を機に事務局員になり、6年前からクラブマネジャーとして活動している。

主な資格 (公財) 日本体育協会公認クラブマネジャー、防災士



「語ることをつづける!!」

語るということは苦手な分野ではあるんですけど、思いを語れば耳を傾けてくれる人が必ずいます。また、会員さんや近くのクラブマネジャーさんとも語り合っていけば自分の強み・弱みが認識できると思います。自分の言葉で語り続けていけばうまくいくと思います。

藤堂 綾子 氏

岐阜県クラブアドバイザー。長良西スポーツクラブのマネジャーを経てクラブアドバイザー 3年目。岐阜市やスポーツ推進委員主催のイベントでノルディックウォーキングの指導員として活動中。毎年春から秋にかけては長良西スポーツクラブ主催で、長良川沿いで鵜飼いを見ながらナイトウォークを実施。時間があれば、金華山に登って岐阜城から町を見下ろす。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー



「スマイル まずは自分が楽しもう！」

やっぱり、自分が笑顔でいないといけないということ。地域の人のためとかそういう義務感だけじゃなくて、自分が楽しむという初心を忘れることなく進んでいきたいなと思っています。家庭も仕事も楽しんでいきたいです。皆さんも一緒に頑張りましょう！

菊地 正 氏

NPO法人高津総合型スポーツクラブSELF副理事長・クラブマネジャー。本メールマガジン編集委員長、SC全国ネットワーク代表委員(神奈川県)。100年続くクラブづくりを地域、学校、行政と一体となり行うとともに、新しい学校づくりの計画を推進している。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー



「大きな夢を持って前進あるのみ!!」

これは私の生き方であり、クラブのあり方です。夢がないとやっぱり前進できない。そのためにはたくさん汗をかいて、いろんなものを乗り越えて、苦労しないといけません。でもそうしていると助けてくれる人がいっぱい出てきて、仲間が増えていく。そして夢が達成できる。そういうことを常に考えています。楽しいことやいいことばかりじゃないのは当然ですけど、歩みを止めないで前に行くこと。この歳になってなかなかしんどいんですけど、頑張りたいと思います。

<日本体育協会公認クラブマネジャー資格の詳細はこちら>

<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/221/Default.aspx>

INDEXへ